

合同ミーティング（研修会）内容の要約



日本のスポーツクラブは、アメリカの模倣をしてきた経緯があります。高齢化社会をすでに迎えている日本において、アメリカ模倣型のクラブ運営ではなく、日本型の運営をする必要があるのではないのでしょうか。では、日本型の「本物」のスポーツクラブとは、どのようなクラブなのでしょう。

彩華スポーツクラブの顧問に就任していただきました佐野 豪先生は、日本にスポーツクラブが全国に広がる30数年前から、今後の日本に必要とされる「健康生活倶楽部創り」を提言されてきた、全国唯一の啓蒙者の先生です。

現代の日本において、「いじめ問題」がクローズアップされています。子ども同士で楽しいコミュニケーションが取れず、陰湿な関わりの中でコミュニケーションが取られるなかで、いじめが起こり、その陰湿ないじめにさらに付き合ってしまうため、どんどんエスカレートしてしまいます・・・

では、いじめ問題と水泳（・・・水泳の前に「水」ですね）は、どんなつながりがあるのでしょうか。子どもは、生まれる前から母親の「羊水」、つまり水中での体験をしています。水との関わりは、子どもにとっての「原体験」となるのです。そうした視点で、人間が本来もっている水との関わりの中で、人間関係を育む基礎を、現場のコーチ（及び学校の先生）に勉強してもらわなければならないのです。

特に幼児期に、このコミュニケーション能力が育まれます。母子分離をし、子どもが他の子どもに興味を持ち始めるのは、3歳くらいですが、その時期を日本では「第1反抗期」という呼び方をしています。しかし、言い方を変えると、「自立期」と呼べるのではないのでしょうか。よって、その自立期を喜べる親になってもらいたいと思います。しかし、残念なことに日本では、反抗期と呼ばれるため、親が、その反抗期を喜べない状況を作ってしまうています。反応期ではなく、自立期であると親が捉える事ができれば、親として素直に、子どもの成長を喜ぶことができます。「ついに我が子に反抗期来たな！」という拒絶反動的な捉え方ではなく、「ついに自立期が来た！」という喜びになって欲しいと考えます。「お宅の子どもさんは、反抗期がなくていいですね」は、いいのではなく、実は大変な問題なのです。

佐野 豪先生は、こうした視点で、30数年前から「新しいスイミング創り」を提言されてきた、同じく全国唯一の啓蒙者の先生です。

以上のように、「必要とされるクラブ」「子育て」という観点、つまりは本質論から、今後彩華スタッフは勉強していくこととなります。どこのクラブでも、こうした本質論を学ばずに展開しているのが現実です。我々彩華スポーツクラブスタッフは、これから、本質論から学んでいき、地域みなさまに、今以上に喜んでいただけるようなクラブづくりをめざしていきます。

